

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年10月13日
【四半期会計期間】	第77期第1四半期（自2023年6月1日 至2023年8月31日）
【会社名】	カネコ種苗株式会社
【英訳名】	KANEKO SEEDS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金子 昌彦
【本店の所在の場所】	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
【電話番号】	027（251）1619
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部門・コンプライアンス・IT推進担当 長谷 浩克
【最寄りの連絡場所】	群馬県前橋市古市町一丁目50番地12
【電話番号】	027（251）1619
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部門・コンプライアンス・IT推進担当 長谷 浩克
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第1四半期連結 累計期間	第77期 第1四半期連結 累計期間	第76期
会計期間	自2022年6月1日 至2022年8月31日	自2023年6月1日 至2023年8月31日	自2022年6月1日 至2023年5月31日
売上高 (千円)	14,577,928	13,727,579	62,179,177
経常利益 (千円)	340,625	309,627	1,913,319
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	224,998	208,188	1,426,338
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	270,376	243,667	1,405,792
純資産額 (千円)	22,706,584	23,527,068	23,513,832
総資産額 (千円)	43,940,223	43,298,826	46,707,875
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	19.44	18.18	123.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.7	54.3	50.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は73期(2020年5月期)第2四半期連結会計期間より「株式給付信託(BBT)」を導入しており、信託が所有する当社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。そのため、1株当たり四半期(当期)純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

## 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 財政状態及び経営成績の状況

#### (経営成績の状況)

当第1四半期連結累計期間(2023年6月1日～2023年8月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことで、経済活動が正常化へ近づいたことに加えて、インバウンド需要の回復、企業の設備投資が堅調に推移するなど明るい材料も見られました。その一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や円安・資源高の影響による物価上昇が、景気下押し圧力となるなど不透明感が拭えない状況が続いております。

国内農業の状況は、少子高齢化による食料消費の減少や農家の後継者不足等の従前からの課題に加え、生産資材の高騰によるコスト高、酷暑による農作物の品質低下や不安定な作柄の影響が、農家経営に暗い影を落としております。

このような状況のなか当社グループの業績は、売上高137億27百万円で前年同期比8億50百万円(5.8%)の減収となりました。利益面でも、営業利益2億58百万円で前年同期比33百万円(11.4%)減、経常利益3億9百万円で前年同期比30百万円(9.1%)減、親会社株主に帰属する四半期純利益2億8百万円で前年同期比16百万円(7.5%)減となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 種苗事業

種苗事業においては、サツマイモ切苗やタマネギ種子の国内販売が伸長したものの、野菜種子の輸出の一部が第2四半期へ先送りとなったことや、緑化工事用種子の需要減に伴い販売が低迷したことにより、売上高20億78百万円で前年同期比3.1%の減収となりました。利益面でも、賃上げや人員増に伴う人件費の増加や、種子品質向上のため物流保管施設を充実させたことに伴うコストアップ等により、セグメント利益3億12百万円で前年同期比17.6%減となりました。

#### 花き事業

花き事業においては、営利栽培農家向けのカーネーション苗、ユーストマ種苗に加え、園芸農薬の販売が増加したものの、巣ごもり需要の反動減と猛暑の影響から一般家庭向け園芸資材・肥料及び花苗・野菜苗の販売が低迷し、売上高16億6百万円で前年同期比1.3%の減収となりました。利益面でも、セグメント損失47百万円(前年同四半期のセグメント損失は17百万円)で損失は拡大いたしました。

なお、当事業は春に需要期を迎えることに伴い、第4四半期に売上高及び利益が集中的に計上される傾向があります。例年第3四半期まではセグメント損益はマイナスであります。通期では当該マイナスは解消されております。

#### 農材事業

農材事業においては、主要取扱い商品の農薬が、前年同期に値上り前需要により販売が増加した反動や、酷暑に伴い生産者の散布機会喪失により除草剤の販売が、害虫発生が少なかったことにより殺虫剤の販売がそれぞれ減少し、売上高71億10百万円で前年同期比5.8%の減収となりました。利益面では、採算性が改善したことから、セグメント利益2億62百万円で前年同期比56.1%増となりました。

#### 施設材事業

施設材事業においては、原料価格高騰に伴う農業資材価格の上昇が、生産者の買い控えや設備投資意欲の減退を招いたことから農業用フィルムを中心に販売が減少し、売上高29億32百万円で前年同期比10.0%の減収となり、利益面でも、セグメント利益26百万円で前年同期比46.1%減となりました。

#### (財政状態の状況)

当第1四半期連結会計期間末における「資産の部」の残高は、432億98百万円となり、前連結会計年度末と比較して34億9百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金や商品の減少によるものであります。

また、「負債の部」の残高は、197億71百万円となり、前連結会計年度末と比較して34億22百万円減少いたしました。これは主に買掛金の減少によるものであります。

なお、「資産の部」における受取手形及び売掛金の減少、また、「負債の部」における買掛金の減少は、当社グループの事業が主に第4四半期に繁忙期を迎えることに伴うものであり、每期ほぼ同様の状況となっております。

「純資産の部」の残高は、235億27百万円となり、前連結会計年度末と比較して微増となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、220,337千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,000,000
計	19,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年10月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,772,626	11,772,626	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	11,772,626	11,772,626	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年6月1日～ 2023年8月31日	-	11,772,626	-	1,491,267	-	1,751,682

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2023年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 256,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,489,100	114,891	-
単元未満株式	普通株式 27,326	-	-
発行済株式総数	11,772,626	-	-
総株主の議決権	-	114,891	-

## 【自己株式等】

2023年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
カネコ種苗株式会社	群馬県前橋市古市町 1-50-12	256,200	-	256,200	2.18
計	-	256,200	-	256,200	2.18

(注) 「株式給付信託(BBT)」の信託財産として信託が保有する当社株式66,600株は、上記の自己株式等には含めておりません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年6月1日から2023年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年6月1日から2023年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,448,185	3,223,823
受取手形及び売掛金	20,720,127	16,254,997
電子記録債権	388,356	619,111
商品	10,231,778	9,431,570
未収入金	2,182,034	2,863,883
その他	271,469	415,257
貸倒引当金	20,996	16,980
流動資産合計	36,220,954	32,791,663
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,999,060	3,999,060
その他(純額)	2,785,940	2,833,886
有形固定資産合計	6,785,000	6,832,946
無形固定資産		
720,780		687,788
投資その他の資産		
その他	3,000,461	3,009,180
貸倒引当金	19,321	22,752
投資その他の資産合計	2,981,139	2,986,428
固定資産合計	10,486,921	10,507,163
資産合計	46,707,875	43,298,826
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	19,448,024	13,266,593
短期借入金	-	3,120,000
未払法人税等	306,191	117,712
その他	1,813,531	1,642,838
流動負債合計	21,567,747	18,147,145
固定負債		
退職給付に係る負債	1,265,239	1,262,816
役員株式給付引当金	65,563	71,263
その他	295,492	290,533
固定負債合計	1,626,295	1,624,612
負債合計	23,194,042	19,771,758
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,491,267	1,491,267
資本剰余金	1,765,224	1,765,224
利益剰余金	19,721,047	19,698,907
自己株式	477,057	477,161
株主資本合計	22,500,481	22,478,237
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	956,629	962,899
為替換算調整勘定	2,373	28,615
退職給付に係る調整累計額	54,087	57,044
その他の包括利益累計額合計	1,013,089	1,048,559
非支配株主持分	262	271
純資産合計	23,513,832	23,527,068
負債純資産合計	46,707,875	43,298,826

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)
売上高	14,577,928	13,727,579
売上原価	12,401,678	11,481,798
売上総利益	2,176,249	2,245,781
販売費及び一般管理費	1,884,977	1,987,733
営業利益	291,271	258,048
営業外収益		
受取配当金	29,752	37,038
受取家賃	17,497	18,896
為替差益	3,120	-
その他	4,164	3,705
営業外収益合計	54,535	59,640
営業外費用		
支払利息	4,966	6,098
為替差損	-	679
その他	215	1,282
営業外費用合計	5,181	8,061
経常利益	340,625	309,627
特別損失		
固定資産処分損	4,147	6
特別損失合計	4,147	6
税金等調整前四半期純利益	336,477	309,620
法人税等	111,456	101,422
四半期純利益	225,021	208,198
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	224,998	208,188

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	225,021	208,198
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,792	6,270
為替換算調整勘定	21,028	26,242
退職給付に係る調整額	2,532	2,956
その他の包括利益合計	45,354	35,469
四半期包括利益	270,376	243,667
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270,338	243,639
非支配株主に係る四半期包括利益	37	27

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

(業績の季節的変動)

当社グループの業績は、第4四半期において、他の四半期と比較して売上高・利益ともに増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)
減価償却費	112,522千円	116,936千円
のれんの償却額	429	-

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2022年6月1日 至2022年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年8月26日 定時株主総会	普通株式	209,538	18	2022年5月31日	2022年8月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有している当社株式に対する配当金1,198千円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自2023年6月1日 至2023年8月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年8月25日 定時株主総会	普通株式	230,328	20	2023年5月31日	2023年8月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有している当社株式に対する配当金1,332千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2022年6月1日 至2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗事業	花き事業	農材事業	施設材事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928
セグメント利益又は損失( )	379,419	17,819	168,063	49,204	578,866

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	578,866
全社費用(注)	287,594
四半期連結損益計算書の営業利益	291,271

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2023年6月1日 至2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗事業	花き事業	農材事業	施設材事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	2,078,447	1,606,001	7,110,845	2,932,285	13,727,579
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,078,447	1,606,001	7,110,845	2,932,285	13,727,579
セグメント利益又は損失( )	312,591	47,370	262,379	26,515	554,116

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	554,116
全社費用(注)	296,068
四半期連結損益計算書の営業利益	258,048

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自2022年6月1日 至2022年8月31日)

(単位:千円)

	種苗事業	花き事業	農材事業	施設材事業	合計
一時点で移転される財	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	-	-
顧客との契約から生じる収益	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,144,751	1,627,217	7,549,208	3,256,749	14,577,928

当第1四半期連結累計期間(自2023年6月1日 至2023年8月31日)

(単位:千円)

	種苗事業	花き事業	農材事業	施設材事業	合計
一時点で移転される財	2,078,447	1,606,001	7,110,845	2,932,285	13,727,579
一定の期間にわたり移転される財	-	-	-	-	-
顧客との契約から生じる収益	2,078,447	1,606,001	7,110,845	2,932,285	13,727,579
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,078,447	1,606,001	7,110,845	2,932,285	13,727,579

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)
1株当たり四半期純利益	19円44銭	18円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	224,998	208,188
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	224,998	208,188
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,574	11,449

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当社の取締役に対する株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(前第1四半期連結累計期間 66千株、当第1四半期連結累計期間 66千株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年10月13日

カネコ種苗株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 飯塚 正貴

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川口 宗夫

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカネコ種苗株式会社の2023年6月1日から2024年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年6月1日から2023年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年6月1日から2023年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、カネコ種苗株式会社及び連結子会社の2023年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。



- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。